

ラヂオきしわだ番組審議委員会第十五回議事録

開催日時 平成 25 年 10 月 18 日 15 時から 16 時

場所 ラヂオきしわだ事務局

ご出席委員	片山智信	ご欠席委員	杉本昇
	谷口真澄		芦田有香
	永谷裕久		西村静代
	近松健二（途中退席）		

放送局長 八木雄一郎 同席

事務局長 北野忠夫 同席

理事 片山陽子 同席

1.番組編成概要

番組審議委員長の片山智信氏が開会を告げ、「台風の影響で各地に大きな被害が出た。こんな時にこそ情報の提供が求められる。」と、放送の重要性を話された。

八木局長より番組編成の一つとして、九月祭礼、十月祭礼での放送の内容を説明した。九月祭礼は 9 月 14 日・15 日の両日、午前 9 時から午後 9 時迄、昨年同様、「あなたの町のだんじりはどこ？」というコンセプトで、見所ポイントにリポーターを配し、電話中継でだんじりと、町の様子、見物風景などを状況レポートし、またスタジオからはレギュラー出演者が、コシノミチコさん、永谷裕久さんなどのゲストとともにトークを繰り広げた。

十月祭礼の方は 10 月 12 日・13 日両日午前 9 時から午後 4 時まで、大体、宮入り、行基参りなどのだんじりが集合するところを中心にレポートをした。十月祭礼に際しては事前に、総年番長、各地区年番長、幹事に朝の番組「おはきし」の中の「岸和田を元気にする人々」に出演頂き、「今年のお祭りにかける意気込み、見どころ」等を語って頂いた。

ラヂオきしわだの半被を着ていると関係者の扱いで、よいポジションが取れる等認知度も上がって来ている。

2.認定NPO取得の報告

9 月 20 日に大阪府より認定NPOの認定書を頂いたことを報告する。認定NPOは多くの人に支持されていること、公共性、会計内容に透明性、遵法性があり、優れた運営をしているNPOに認定されるもので、大阪府では二番目となったことを紹介する。これによって頂いた寄付金は税金の優遇が受けられ、個人では寄付金の約 40%の税額控除を、法人では損金処理が出来ることを説明し、これにより寄付金の増加を図りたいと考えていることを説明する。

片山委員長から、「FM放送では初めてか？」と問われ、「FM放送では全国で初めて」と八木局長が答える。「それは素晴らしい」と、片山委員長からお褒めを頂く。

3.ご審議頂く番組

一つは前述の十月祭礼の総年番長などにご出演頂いた「おはきし」の中から「岸和田を元気にする人々」で、もう一つは9月から始まった「ぶりの白子のとれたてピチピチらじ魚」で毎週木曜日の午後4時～5時に放送している番組をきいて頂く。

八木局長より「おはきし」について、岸和田市の広報や、イベントの紹介をしているので、岸和田市の広報に「ラヂオきしわだ」を聞いてくれというのを掲載してもらいたい旨を岸和田市に申し入れをしていることを紹介する

片山委員長より、祭礼関係の番組、特に年番長などに出演してもらうのは岸和田の人には関心のあることだから、いいと思うとの意見があり、永谷委員からは地区名や地名など、地図が頭に浮かぶくらいの位置関係を説明する必要があり、また七年番の説明が必要、小学校の校区と絡めるなど、リスナーに位置を頭に入れてもらえるような、判りやすい案内が必要であるとの意見があった。これに対して、八木局長より今後そのようにすることを述べる。

もう一方の「ぶりの白子のとれたてピチピチらぢ魚」は泉州出身の吉本興業の若手の女性二人のトーク番組であり、彼女らは泉大津市の盛り上げ隊でもあることを紹介する。また自分たちの番組のシールを作って宣伝をしていることを紹介する。

片山委員長より、吉本の許可得ているのかとの質問があり、八木局長より、もちろん承諾されていること、それと番組終了後は1時間漫才の練習をすることを奨励しているので、吉本は育ててくれていると思っていると考えていることを説明する。

番組編成に話が戻って、八木局長よりフォークデュオの紙風船に番組を作ってもらえないか打診中であること、企画していたアンチ・エイジングの番組は医師会も総論賛成だが、まだ具体的にまとまらないこと、11月には編成替えて隔週放送だった番組が毎週放送になる番組があることなどを紹介する

4.番組放送及び番組に対するご意見

ラジオはテレビと違って口だけで説明するので難しいという片山委員長の話に関して、八木局長より「本を読んだ時と同じでイメージしてもらうのだから、自分たちだけでイメージしないようにパーソナリティーに言っている」ことを紹介する。

また片山委員長より、スタジオに来てもらって、ラジオの存在を実感してもらい、「出たぞ」という話題を広げてもらうことが、時間はかかるが大事なことではないかとの意見があった。また、ケーブルTVとFMラジオという他市に無いメディアを持っているのは市の誇りだし、いざという時にはFM放送が一番頼りになるメディアなので、行政の補助事業として考えてもらうべきだと考えているとご意見があった。

谷口委員より、今度の市長選をいい機会として、候補者に出演して頂き、防災事業、災害時の緊急情報の発信の仕方などをどう考えているかを質してみるのも一つの方法という意見があった。

片山委員長・永谷委員より、何かあった時はTVよりもラジオのほうが役に立つ、緊急時に情報をどう伝えるか行政に考えてもらい、市民が安心するような絵を描く事も必要との意見があった。

次回の番組審議委員会を12月20日に開催することを確認して閉会した。時間については2時半からの予定。

以上